NIE実践報告

1．タイトル：熟語を探そう

2．学校名

那覇市立小禄南小学校

3．実践者名（代表者名）

石原陽子

4．学年

4年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　36人

6．単元（本時の学習課題）名

漢字を組合わせた言葉

7．目標(狙い)

新聞の文面から自分が興味を持った熟語をみつけ、意味を確認しながら短文を作る。

8．評価の視点

熟語に興味・関心を持ち、新聞から探し出してその意味を辞書で確認しながら進んで短文作りに活かそうとしたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

漢字を組み合わせた言葉（教科書教材：教育出版）2時間　　本時１／２時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①「熟語」の意味について知る。
②身近な活字媒体である新聞を使って、知っている、もしくは興味のある熟語を探して切り抜く。
③切り抜いた熟語を使って短文を作る。
（留意点）
・新聞で使用される熟語はたくさんあるので、最初の一文字を決め、その仲間を集める。（ただし、見つけにくい一文字もあるので、場合によってはア行、カ行というように行列の仲間の熟語でも可とする。）
・意味があやふやな熟語は必ず辞典（国語辞典・漢字辞典）で調べさせる。
・熟語を使った短文の側に、その熟語の意味も明記させるようにする。
・次時（熟語になっている２つの漢字の組み合わせ方について理解する。）につなげる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

どの児童も、切り取った熟語を意味調べしながら短文作りができていた。「し」で始まる言葉で「首相」と「自信」を別々に見つけ、「『首相』が『自信』を持ってスピーチした」と組み合わせて発展させた児童もいた。

12．成果と課題

成果：新聞から熟語を探す活動を通して、それまで大人が読む物と思っていた新聞が自分達でも読むことができると認識する児童が増えた。また、熟語探しがきっかけで多彩な記事に触れ、社会事象に興味・関心を持ち、友達同士で話題にするようになった。（社会性の育み、コミュニケーション力）
課題：「読むスピード」「漢字力」の個人差が大きく、熟語の収集量にひらきがある。（充分に取り組める時間の確保）